

ちよつとそこまで

# わがまち散歩

道すがら、心通わす人がいる  
古里の温もりに包まれながら  
あちらこちら、わがまち散歩



朝日に手をかざすと、指の間に血潮が浮かびます。両手を合わせて「今日もいい出会いになりますように」と願いを込めて、新年最初の散歩が始まります。

## 果物のようなニンジン!

朝露をまとった畑で取れたばかりの、冬ニンジンの出荷に大忙しの野田青果にお邪魔しました。代表の野田和則さん(64)が栽培監修しているのは「彩誉」という品種のニンジンです。柿のように甘くフルーティーな香りで、シャキシャキとした食感が特長です。「千切りにして塩を振って絞る、オリーブオイルとブラックペッパーで混ぜ合わせてサラダにするとおいしいですよ」と野田さんがレシピを教えてくださいました。

作業場でせわしなく手を動かすスタッフの皆さんは、「うちのニンジンば食べたなら、他んとは食べられんですよ」と笑顔で胸を張ります。

栽培や保存法を徹底的に研究してこだわり抜いた「彩誉」は、主に関西や関東方面に出荷されていますが、県内では唯一、熊本市東区の熊本マリスト学園近くの食料品店「ガストロノミーナカタ」で求めることができます。



上 / 12月11日に行われた曲手組の「おてじんさん」の神事

左 / 12月10日の夕刻から始まった「堂ごもり」



## 平田の「おてじんさん」

平田の一部の地区では毎年、12月14日と15日に近い土日日に「おてじんさん(天神様)」という祭りが開催されます。令和4年は12月10日と11日に執り行われました。2日間にわたるこの祭りは、天照大御神の誕生を祝った神事だそうです。「前夜に神木のサカキの前に火を起こして皆で囲み、夜通しで神様の誕生を見守る『堂ごもり』を行い、翌日はその誕生を祝ううたげの『座祭り』を行います」と



上 / ニンジン畑では収穫の真っ最中です



右 / ふっくらと実った野田青果のニンジン「彩誉」



野田青果のスタッフのみなさん